

12. 長期化の要因

- 戦法の変化：両軍が陣を**井楼・堀などで防御**したため京都での市街戦は攻城戦となった。敵陣（敵城）を急襲して一挙に攻略することは断念せざるを得ない。防御側優位の状況が生じた結果戦線が膠着し、長期化したのである。
 - * 井楼：戦場で敵陣を偵察するために材木を井桁に組んで構築する**物見櫓。防御施設。**応仁の乱では、井楼の上に武器（石・火矢等）を備えて、接近する敵を撃退するなど**攻撃施設**として利用した。

井楼



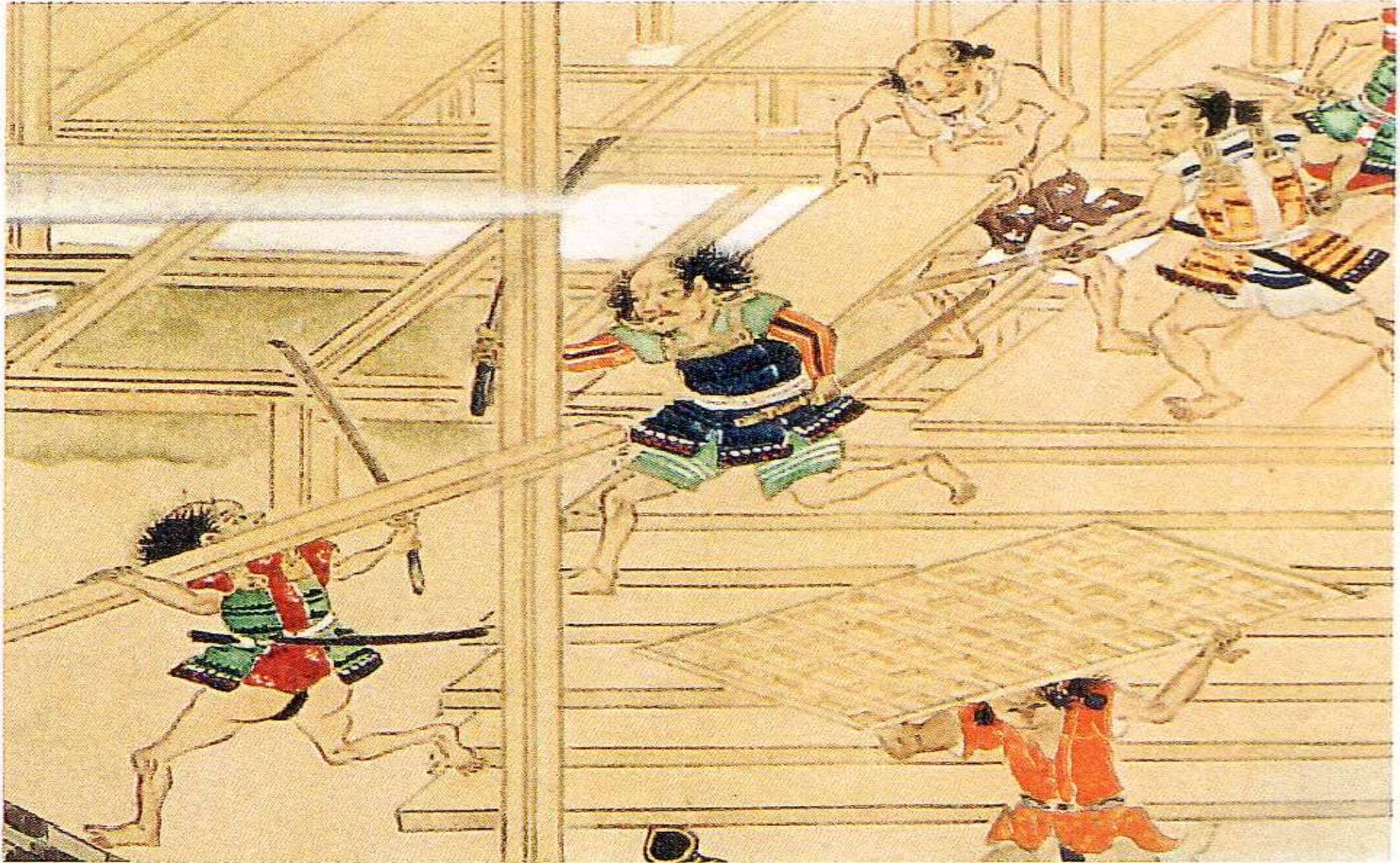
長期化の要因

- **足軽の暗躍**: 応仁の乱の戦いで特徴的とされるものは正規の武士身分ではない足軽の活躍である。兵力不足に悩んだ両軍は足軽を大量に雇い、戦力に加えた。
 - * 足軽: 甲冑などを着けない軽装の歩兵で、殆どは京都周辺で雇われた農民や地侍。
- 足軽に期待された役割: 敵の補給路の遮断、補給施設の破壊など。足軽たちは機動力を生かして略奪・放火を繰り返して敵軍を疲弊させた。報酬が少ないことから、略奪などは黙認されていたようで、戦場は「稼ぎの場」だった。
- **足軽**は盗賊や凶悪人を多く含んだ**無法者の集団**に近く、高い自立性を持っていて、利益になるのであれば、どちらの軍にでも味方したことから、**統制がきかなくなり、長期化の原因**となった。

応仁の乱戦の戦闘シーン 『真如堂縁起絵巻』



足輕略奪シーン 『真如堂縁起絵巻』



長期化の要因

- 8代将軍**義政の優柔不断な性格、指導力不足**
 - 優柔不断：管領家の家督相続問題で、裁定を二転三転させて、応仁の乱の原因をつくった。
 - 指導力不足：適宜停戦命令を出すも、誰も命令に従わず。
- * 義政が畠山義就に送った御内書(1467年5月/9月)
5月26日付「ひとまず河内へ下って、争いを避けてほしい」
9月8日付「天下のために、領国へ帰るように。河内国は義就と政長で分け合うように」

長期化の要因

- 参戦した大名たちによる強硬で一貫した和睦反対
- 問題点：自分第一主義
- 主張：それぞれの獲得目標（＊）が得られるまでは戦いをやめない。
 - * 畠山義就－和睦すれば畠山家の家督は政長のものとなる。
 - * 大内政弘－官位も得られないまま領国へ帰れない。
 - * 赤松政則－奪還した旧領地が山名のものとなる。

第3部 応仁の乱ゆかりの地

1. 御霊神社(上御霊神社)(所在地:京都市上京区上御霊前通烏丸東入ル上御霊豎町)

《キーワード:応仁の乱勃発の地》

- 桓武天皇が早良親王の怨霊から平安京を守るために建立した神社で、1467年(文正2)1月18日、畠山政長と畠山義就の戦いがこの場所で行われ、応仁の乱の端緒となった。

2. 相国寺(所在地:京都市上京区相国寺門前町701)

《キーワード:応仁の乱激戦地:相国寺の戦い(1467年:応仁元年10月3日ー4日)で七重塔を除き焼失》

- 応仁の乱最大の激戦とされる相国寺の戦いが行われた場所で、多数の死者を出し、寺の建物は殆どが焼失した。

3. 足利将軍室町第跡碑(所在地:京都市上京区今出川室町交差点の北東側)

《キーワード:3代将軍義満が造営した花の御所跡》

- 足利義満が造営した「花の御所」跡の石碑。将軍の邸宅と幕府政庁を兼ねていた。
- 京都市の中央部を南北に走る烏丸通と室町通、東西に走る上立売通と今出川通に囲まれた一帯が花の御所跡と推定されている。
- 西側の正門が室町小路に面していたため「室町第」「室町殿」とも呼ばれた。室町幕府の呼称はこのことに由来する。
- * 敷地面積:東西1町(約109m)×南北2町(218m)

花の御所周辺地図



足利將軍室町第跡碑：西側室町通



4. 花の御所跡石碑(大聖寺境内) (所在地:京都市上京区烏丸通今出川上ル)

- 《キーワード:応仁の乱では東軍が本陣をおいた場所》
- 天皇家ゆかりの尼門跡寺院。山号は岳松山。宗旨は臨済宗系の単立。本尊は釈迦如来。
- 花の御所があつと想定される区画内に建つ大聖寺境内に「花の御所」の石碑がある。

5. 花の御所石組み遺構(所在地:京都市上京区上立売通烏丸東入:同志社大学寒梅館)

- 花の御所跡と推定される区画の北東に同志社大学寒梅館がある。
- その建設時の発掘調査で、花の御所の遺構とみられる石組みの跡が検出された。
- 寒梅館の北に石組みをガラス越しに見学できる施設がある。







6. 山名宗全邸跡(所在地:京都市上京区山名町)

《キーワード:西軍の本陣があった場所》

- 応仁の乱で山名宗全はみずからの邸宅を西軍の本陣とした。
- 西軍の陣が「西陣」の地名の由来になっている。
- 現地には石碑と説明板がある。
- 山名町の地名が残る。

7. 西陣の碑(所在地:京都市上京区今出川通 大宮東入北側:京都市考古資料館前)

- 応仁の乱で西軍の陣が置かれた場所(京都市考古資料館前)に碑が建っている。



8. 宝鏡寺(所在地:京都市上京区百々町)

《キーワード:小川御所跡、元は細川勝元の別邸》

- 境内の一部が室町幕府の別邸・小川御所の跡地にあたる。元は細川勝元の別邸で、足利義政が譲り受けた。





小川御所之跡

此處御所跡

9. 百々橋礎石(所在地:京都市上京区百々町)

《キーワード:応仁の乱の激戦地》

- 応仁の乱で付近が激戦地となった場所。
- 当時は戦場を南北に流れる4m幅の小川(こかわ)があり、この川を挟んで西軍と東軍が対峙したと伝わる。



まとめに代えてー歴史に学ぶ

- 『応仁の乱』から何を学ぶか？
- 足利義政のように、優柔不断で、ぶれまくる人間にはなりたくないものだ。
- 山名宗全のように、いい年をして、喧嘩ばかりの人生は送りたくないものだ。
- 細川勝元のように、策ばかり弄する、腹黒い人間にだけはなりたくないものだ。

応仁の乱に学ぶ

私の場合は：

- ①戦争のない平和な世界の実現に尽力したい。
- ②自分第一主義を排し、世のため・人々のためを第一に、ぶれない心で行動する。
- ③問題解決策・打開策・脱出策：
トラブル・課題に遭遇したら、少し高い視点から事態全体を俯瞰して、関係者にとって最善の解決策を探る努力をする。

《資料1》室町時代略年表

- (鎌倉時代)
- 1333年:執権の北条氏一族が滅び、鎌倉幕府倒れる。
- (室町時代)
- 1336年:足利尊氏、建武式目を定める。後醍醐天皇は吉野に移る(南北朝時代の始まり)。
- 1338年:足利尊氏が征夷大將軍となり、京都に幕府を開く。
- 1339年:後醍醐天皇没。尊氏が暦応寺(翌年天龍寺と改称)を建立。
- 1348年:楠木正行が高師直と河内四条畷で戦い戦死。崇光天皇即位(北朝)。
- 1349年:足利基氏、鎌倉公方に。
- 1350年:尊氏の子直冬が九州で挙兵、尊氏は追討のため出京。足利直義が南朝に降る。
- 1351年:尊氏・義詮が南朝方に降伏。
- 1367年:鎌倉公方足利基氏が没し氏満が跡を継ぐ。
- 1367年:南北朝和睦の話し合いが決裂。

室町時代略年表(2)

- 1368年: 足利義満が11歳で征夷大将軍になる。
- 1378年: 義満、花の御所に移る。
- 1392年: 南朝の後亀山天皇が三種の神器を北朝の後小松天皇に譲り南北両朝が合一。
- 1394年: 義満が9歳の義持に将軍職を譲り、太政大臣になる。
- 1397年: 義満が京都の北山に金閣寺を造営。
- 1398年: 三管領(細川・斯波・畠山)・四職(山名・一色・京極・赤松)の制を整備。
- 1399年: 幕府が、鎌倉公方と組んで反した大内義弘を討つ(応永の乱)。
- 1400年: 世阿弥元清の『風姿花伝』ができる。この頃能楽が盛んになる。
- 1401年: 義満が明に国書を送り国交を求める。
- 1403年: 義満が明に使いを送り国書に「日本国王源」と記す。
- 1404年: 明から勘合が送られて来て、日明間の勘合貿易が始まる。

室町時代略年表(3)

- 1408年：足利義満没。
- 1411年：明と国交一時断絶。
- 1416年：元関東管領の上杉禅秀らが鎌倉公方足利持氏に反抗し鎌倉を攻めるが敗北(上杉禅秀の乱)。
- 1428年：将軍足利義持没。幕府は弟の僧義円(環俗して義宣)を迎える。
- 1428年：全国的に飢饉・疫病が流行。近江・山城で起こった一揆が近畿やその隣国に広がる(正長の土一揆)。
- 1428年：後花園天皇即位。
- 1429年：足利義宣が将軍となり、名を義教と改める。
- 1432年：勘合貿易の復活。
- 1438年：関東管領上杉憲実が幕府に反した鎌倉公方足利持氏を攻め、翌年自害させる(永享の乱)。

室町時代略年表(4)

- 1441(嘉吉1)年:赤松満祐が将軍義教を自邸に招き暗殺。管領細川持氏は義教の子義勝を将軍にし、満祐を攻め自害させる(嘉吉の乱)。
- 1449年:足利義政が8代将軍になる。足利持氏の子成氏を鎌倉公方に任じる。
- 1455年:足利成氏が幕府の追討を受け、下総古河に移る(古河公方)。
- 1457年:太田道灌が江戸城を築く。
- 1457年:足利義政が弟の政知を伊豆堀越に派遣(堀越公方)。
- 1464年:後土御門天皇即位。

室町時代略年表(5)

- **1467(応仁1)年: 応仁の乱始まる**
- 1471年: 朝倉孝景が越前の守護になる。
- 1473年: 山名宗全、細川勝元没
- 1474年: 一休が大徳寺住職になる。
- 1474年: 山名政豊と細川政元が和睦。
- **1477年: 大内政弘・畠山義就ら西軍諸将が領国に帰る(応仁の乱終結)。**
- 1482年: 足利義政が東山銀閣寺の造営を始める。

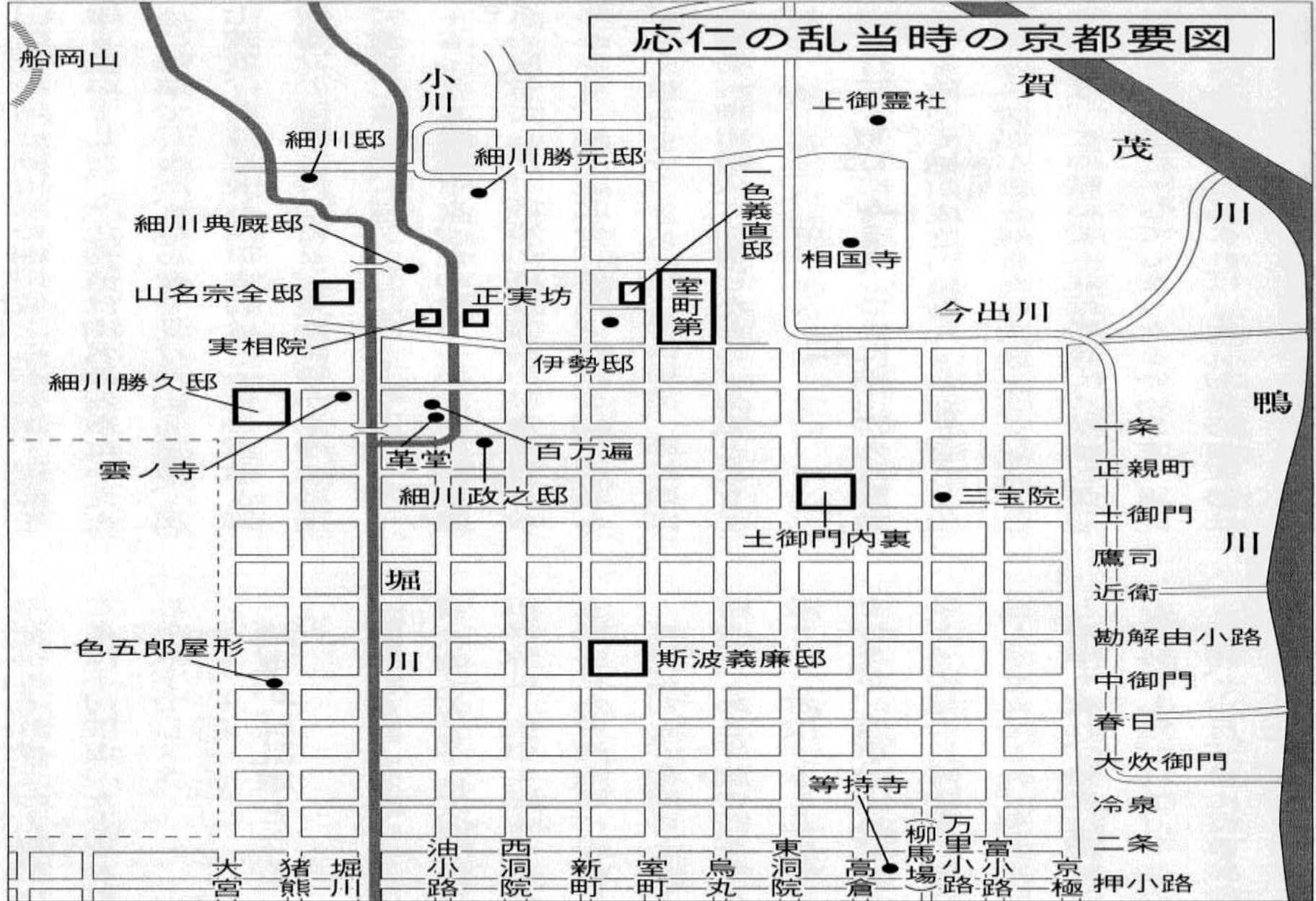
室町時代略年表(6)

- 1484年: 畠山政長と畠山義就の軍が宇治で戦う。
- 1485年: 山城の国人・農民が団結して両畠山軍を追放し、自治を始める(山城国一揆)。
- 1490年: 足利義政没。銀閣の完成。
- 1492年: クリストファー・コロンブスがバハマ諸島に到達(アメリカの「発見」)。
- 1496(明応5)年: 蓮如が石山本願寺を建立。
- 1508年: 前将軍義植が京都に戻り再び将軍となる。幕府が撰銭令を出す。
- 1516年: 幕府が大内義興に対明貿易の独占権を認める。
- 1539年: 大内義隆が勘合貿易を始める。
- 1541年: 毛利元就が尼子晴久を破る。
- 1541年: 武田晴信が父信虎を追放し、自立。

室町時代略年表(7)

- 1543年:鉄砲伝来。
- 1549年:フランシスコ・ザビエルがキリスト教を伝える。
- 1555年:毛利元就が厳島で陶晴賢と戦い自害させる。
- 1559年:織田信長、上杉謙信がそれぞれ入京、将軍義輝に謁見。
- 1560年:織田信長が尾張の桶狭間で今川義元を滅ぼす(桶狭間の戦い)。
- 1567年:足利義昭が越前の朝倉氏を出て、信長を頼る。
- 1567年:信長が斎藤竜興の稲葉山城を落とし、移り住む。
- 1568年:織田信長、足利義昭を奉じて入京。信長が諸国の関所を廃止する。
- 1569年:織田信長が二条城を新築し、足利義昭の邸とする。
- 1570年:織田信長が近江の姉川で浅井・朝倉の連合軍を破る。
- 1571年:織田信長が比叡山延暦寺を焼き討ちする。
- 1573年:信長が浅井・朝倉氏を滅ぼす。
- 1573年:織田信長、足利義昭を京都から追放。室町幕府滅亡。

《資料2》応仁の乱当時京都略図



【参考文献】

- 呉座勇一『応仁の乱』（中央公論新社 2016年10月）
- 小川信『山名宗全と細川勝元』（吉川弘文館 2013年10月）
- 清水克行ほか『新説応仁の乱』（宝島社 2017年4月）
- 石田晴男『応仁・文明の乱』（吉川弘文館 2008年7月）
- 小林千草『応仁の乱と日野富子』（中央公論社 1993年10月）
- 鈴木良一『応仁の乱』（岩波書店 1973年10月）
- 本郷和人『武士の時代を読み直す 戦いの日本史』（角川学芸出版、2012年11月）
- 木村茂光監修『新日本の歴史室町時代』（学研教育出版、2010年2月）
- 丸山裕之『図説室町幕府』（戎光祥出版、2018年6月）
- 天野忠幸「応仁の乱と尼崎」（『地域史研究』第117号所収、2017年11月）
- 洋泉社MOOK『歴史REAL応仁の乱』（洋泉社、2017年5月）
- 小和田泰経監修『図解応仁の乱』（エイ出版社、2017年6月）